
猶予は10分

ぶんぶんぶん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

猶予は10分

【Nコード】

N5319P

【作者名】

ぶんぶんぶん

【あらすじ】

君はにくい男だね、でも振り向かせて見せるよ。

ほうほう、そう来るのかい。そちらから誘っておいて、こちらがその気になつたら用は済んだとばかりに私をかわして、すぐさま姿をくらますのだね。

そして残るのは傷心の私だけ、ということなのだね。そんなやり口は男の風上にも置けないよ。

けれど私が何度も君に騙されてしまつのも悔しいものだね。しかしつついっい今度こそは…と思つてしまふのさ。今度こそは、君が私の素直な心を欺いたりしないだろう、本気になつて全力で自分に向き合つてくれるだろう、と思つてしまふのだよ。

そして毎回痛い目に負うのさ。学習しないものだね私も。

しかし君も誠実そうな顔してなかなかやるね。その銀縁の眼鏡でつついっ信用するのもかもしれないね。

いったい今まで、私以外にもどれだけの相手をその毒牙にかけてきたのだい？

その中に君も本気になつた人はいたのだろうか。

私には決して叶えられなかったことだけれど、他の誰かが成し得たりしたのだろうか。

その誰かが私だつたらよいのと思わずにはいられないだよ。おや、もしかこれは嫉妬というもののかね。初めてだよこんな気持ち。

そうそう、最近君の眼鏡に似たものを見るたびに君の姿が思い浮かぶのさ。

私も似た眼鏡をあつらえようかな。

なぜかつて？

だって鏡を見るたびに君を思い出せるかもしれないだろう？
そうしたらきつとこの想いも色あせないですむかと思ったのだよ。

さて今日はこれでお暇するよ。10分後には委員会に行かねばならないのさ。

もし君の時間が空いたらまた連絡をくれないだろうか？

今度こそ君に本気になってもらうために自分を磨いてくるよ。ふっふっふ、わたしはあきらめの悪い女だからね、君も覚悟しておくのだよ。

む？できればもう来ないでほしい？

それはとても承服しかねるね。君に会えないなんて耐えられないよ。

え？それなら誤解を招く発言をやめてほしい？最近自分に刺さる視線が痛い？

どうしたのかい、私が何かしてしまったのだろうか？君に何かあったのかい？君にはいろいろとお世話になってるからね、私にできることなら何だって力になるよ。

そういうことをあちこちで言うから誤解を招くって？

しかし本当のことなのだよ。君には図書室の整理を手伝ってもらったり、買い物に付き合ってもらったり、今日みたいに囲碁の対局をお願いしたりいつも迷惑をかけているからね。
すごく感謝をしているのだよ。

ふっ、けれど囲碁については別なのだよ、きつといつか君を超えてみせるよ。

たとえば毎回毎回君のやり方に翻弄されて大差で負けてしまってもさ。

近いうちに君に全力で戦ってもらうからね、覚悟しておくのだよ。
置き石だつてなくしてみせるよ。

おつと話をずらしてしまつたようだね申し訳ない。

でも本当にどうしたのだい？ なにか困っていることでも…、む？ 誰
か来たみたいだね。

おやおや君かい、わざわざ迎えに来てくれたのかい、ありがとう。
すまなかつたね、ついつい夢中になつてしまつたみたいだよ。

いやあ、部長といるといつも時間を忘れてしまうのだよ。恥ずかし
いね。

おや、彼がどうかしたかい？ 部長と君は知り合いだつたのかい、そ
んなに見つめて……。

おお、部長に君を紹介しないとね、部長よ、この子は委員会の後輩
なのだよ、かわいいだろう？

この子も辛いものが好きなのだよ、このまえ君と一緒に買いに行つ
た菓子をこの子にもあげたら喜んでくれてね、今度三人で一緒に辛
いもの巡りでもしようと思つていたのだよ。

ああ、そういえば話の途中だつたね、最近見られている気がする
ということだね、どうしたのだろう、君は眼鏡の似合う男前だからな
もしやストーカーというものかもしれない。

危険だね、よし、ここは私が君を送り迎えしてガードでも……む？
いらないのかい。

だが先ほどから顔色が悪いよ、やはりつらいのだろうか？ 保健室に行
くかい、それとも自宅に帰るかい？ さあ私につかまりたまえ、遠慮
はいらないよ、私は力持ちと評判なのさ。それに君の役に立てるな
ら何の苦勞でもないのだよ。

ああ、せっかく迎えに来てくれたのに申し訳ないのだが、委員長に私が遅れると伝えてくれないか？彼を送り届けてから行くよ。

む？どうしてまた泣きそうな顔をしてるのだいこの子は。

さあ、このハンカチを使うのだよ。

君は泣き顔もことのほかかわいいからな、君にもストーカーができてしまうぞ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5319p/>

猶予は10分

2010年12月25日22時51分発行